

① 申請者	◎京都市（京都府） 大津市（滋賀県）	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
-------	-----------------------	-------	--------------------------

③ タイトル

(ふりがな)	きょうととおつをつなぐきぼうのすいろ びわこそすい ~ ふねにのり, あるいてふれるめいじのひととき 京都と大津を繋ぐ希望の水路 琵琶湖疏水 ~ 舟に乗り, 歩いて触れる明治のひととき
--------	---

④ ストーリーの概要（200字程度）

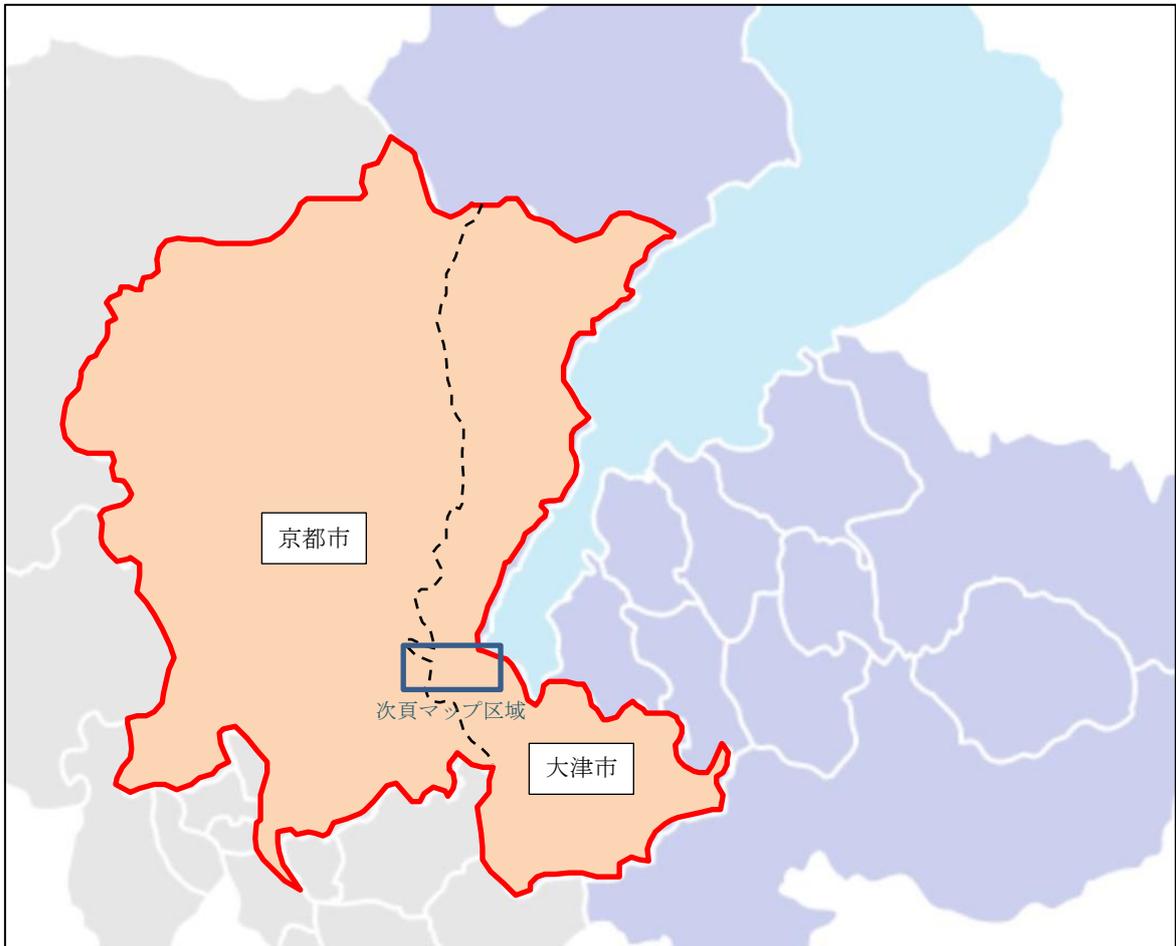
今も京都に「命の水」を運び続ける琵琶湖疏水。遊覧船に乗り、疏水沿いを歩いて触れられるのは、明治の偉業から生まれた、京都と大津の知られざる魅力です。

明治維新の東京奠都<sup>てんと</sup>によって、人口が大きく減少した京都の人々は、琵琶湖疏水の建設に、まちの再生の望みを託し、多くの困難を乗り越え、日本で初めて、日本人のみの手によって、この大土木事業を成し遂げました。豊富な水は水力発電、舟運、防火用水、庭園群、水道などに利用され、経済や産業、文化を発展させました。

京都を再生と飛躍に導き、現在のまちの姿を形づくった琵琶湖疏水は、今も京都と大津を繋ぎ、まちと暮らしを潤し続けています。琵琶湖疏水を舟で遊覧し、沿線や施設を歩くことで、明治の時代のこの壮大な事業が、時を超えて今に息づいていることを、感じることができるでしょう。

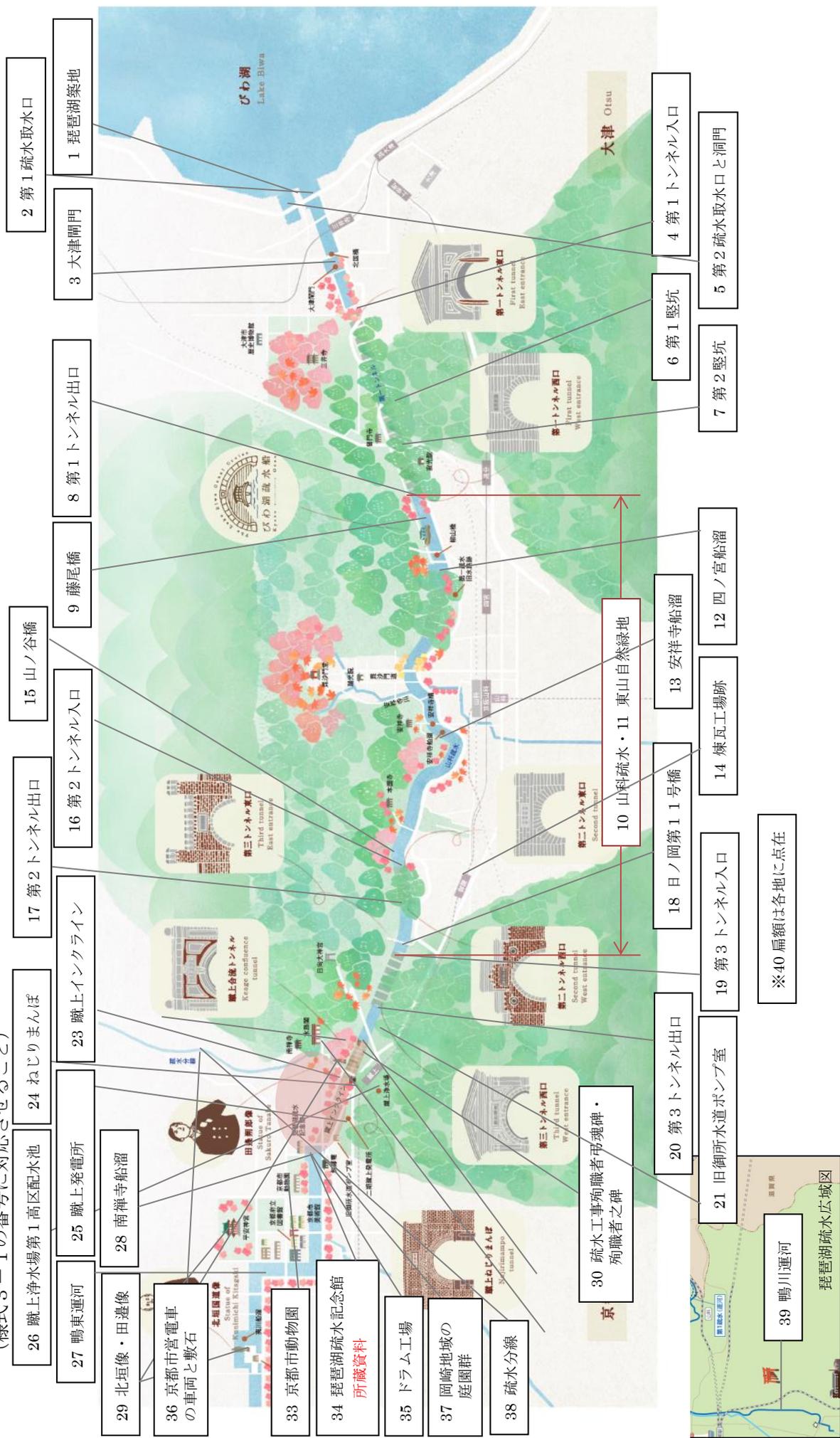


市町村の位置図（地図等）



### 構成文化財の位置図 (地図等)

(様式 3 - 1 の番号に対応させること)



## ストーリー

真っ直ぐに伸びるトンネルの、遙か向こうのかすかな光。それは、明治期に成し遂げられた奇跡の光でした。今も京都に「命の水」を運び続ける琵琶湖疏水は、歴史の偉業を語り続けるトンネルを抜け、桜や新緑、紅葉に彩られる山裾を縫って、ゆるやかに進みます。約 70 年の時を経て復活した遊覧船「びわ湖疏水船」に乗り、疏水沿いを歩くことで触れられるのは、明治の偉業から生まれた、京都と大津の知られざる魅力です。



「びわ湖疏水船」の遊覧

## ① 京都と大津を繋ぐ「希望の水路」

千年以上にわたって日本の首都であった京都は、幕末の争いで市街地が焦土と化し、明治維新の東京奠都（新たに都を定めること）によって、人口が約 3 分の 1 も減少し、「いずれ狐や狸の棲家になる」といわれました。しかし、人々はただ嘆いたのではなく、京都と大津を結ぶ「希望の水路」琵琶湖疏水の建設に、まちの再生の望みを託したのです。

第 3 代京都府知事の北垣国道の下、当時の京都府の予算の 2 年分もの莫大な工事費を要する前代未聞の大事業が始められました。

工事は、工部大学校（現在の東京大学工学部）を卒業して間もない田邊朔郎（当時 24 歳）を工事の主任技師に、欧米の先進の測量術で実績を積んでいた島田道生（当時 36 歳）を測量主任とする青年コンビによる布陣で、明治 18（1885）年に着工しました。



四季折々の表情を見せる琵琶湖疏水

当時の土木技術は現在と比べると未発達であり、機械や材料も貧弱でした。大半の資材を自給自足で賄い、夜には技術者を養成し、昼にはそれを実践するという、現在ではおよそ想像もつかない努力の積み重ねとなりました。また、トンネルを掘り進む中で湧き出る大量の地下水にも悩まされました。

延べ 400 万人の作業員を動員し、約 5 年に及ぶ難工事の末、明治 23（1890）年に、第 1 疏水が完成しました。日本で初めて、日本人のみの手によって成し遂げた大土木事業でした。

第 1 疏水によって、京都のまちは、復興の道を力強く歩み始めました。今でも、「びわ湖疏水船」に乗り、疏水沿いを歩くと、各所のトンネルに、当時の有力政治家たちの揮ごうによる扁額を目にします。扁額の石に彫り込まれた文字は、琵琶湖疏水が日本における一大プロジェクトであったことを私たちに語りかけています。

トンネルの扁額は揮ごう者の想いを語る  
(左)伊藤博文、(右)山縣有朋

## ② 暮らしとまちを大きく発展させた水力発電

第 1 疏水から送られる水は、水車動力や舟運、かんがい、防火、庭園用水など、多くの目的に利用されましたが、最も人々の暮らしを変えたのは、当時の最先端技術であった水力発電でした。

当初、琵琶湖疏水は水車の動力に用いる計画でしたが、工事の途中、田邊朔郎は、実業家の高木文平とともにアメリカへ水力利用の視察に赴きました。二人は、コロラド州アスピンの水力発電を視察する中で、大きなひらめきを得ました。帰国後、田邊朔郎は北垣知事を懸命に説得し、工事の途中で、水力発電の実用化に踏み切ったのです。明治 24（1891）年に蹴上で日本最初の一般供給用水力発電所が稼働すると、まちに電気が送られ、電灯を灯し、機械を動かす動力に利用されました。

水力を利用した低廉豊富な電力によって、京都の中小工場の機械化が大いに進んだほか、日本初となる電気鉄道の営業がスタートしました。

電力の需要は増大の一途をたどり、京都の経済や産業を発展させ、産業の振興は、その後の工学、科学発展の礎となりました。また、医療や娯楽にも電気が活用され、人々の生活文化の向上に大きく貢献しました。

電力出力の増強のために建設された第 2 期蹴上発電所は、現在も蹴上に残っており、京都の暮らしとまちを大きく発展させた多大な功績を今に伝えています。

まちの発展を支えた  
第 2 期蹴上発電所

### ③ 琵琶湖から大阪までを繋いだ舟運

第1疏水から淀川に至ることで、大津から京都を経て大阪までの舟運が開き、物流の拡大によって、経済と産業の更なる発展に繋がりました。運輸に加え、舟の遊覧の名所としても脚光を浴びました。

その後、舟運は、陸上交通の発達によって途絶えましたが、平成30(2018)年に、約70年ぶりに、観光船として復活しました。この「びわ湖疏水船」は、大津から蹴上までの第1疏水をたおやかに進み、舟に乗ることで、琵琶湖疏水の魅力を間近に感じられます。



旧御所水道ポンプ室

### ④ 防火用水と日本屈指の近代庭園群

琵琶湖疏水の水は、東本願寺や京都御所などの施設を守る防火用水としても活用されました。疏水沿いに建つ旧御所水道ポンプ室は、かつて京都御所を火災から守るための施設として使われ、今でもその重厚感ある意匠を見ることができます。

また、琵琶湖疏水の水によって、岡崎地域には、文化的景観が形成されました。近代における最高峰の作庭家 七代目植治こと小川治兵衛の手で、疏水の水を利用した庭園が作られ、日本屈指の近代庭園群を開花させたのです。第3・9代内閣総理大臣 山縣有朋が京都の居所として活用した無鄰菴は、明治期を代表する庭園です。平安神宮神苑の池には、琵琶湖の水が流れ込むことにより、本来は、琵琶湖で生息しているものの、環境の変化によって、確認が困難となっている絶滅危惧種のイチモンジタナゴが生息しています。

これらの庭園群を訪れることで、当時から培われている奥深い庭園文化に触れることができます。



無鄰菴の庭園

### ⑤ 蹴上浄水場からの安全・安心な水道水の供給

第2代京都市長の西郷菊次郎のときに進められた「京都市三大事業」の一環として、第2疏水が、明治45(1913)年に完成しました。更に豊富な水が琵琶湖から京都へ送られるようになり、その水資源を利用して、蹴上浄水場から、日本初の「急速ろ過」方式による水道水の供給が始まりました。

琵琶湖疏水の発展の歴史の上に成り立つ水道・下水道は、今も休むことなく、暮らしを守り、京都の経済や産業、文化など、まちの活動を支えています。京都の食文化も水道・下水道によって支えられています。

京都の水道事業の発祥となった蹴上浄水場では、毎年、施設の一般公開を行っており、「つつじの名所」としても親しまれています。



蹴上浄水場の  
第1高区配水池



約4,800本のつつじ  
が咲き誇る

### ⑥ 時を超えて今も生き続ける琵琶湖疏水

琵琶湖疏水は、我が国の近代化を伝える貴重な産業遺産であり、琵琶湖疏水がなければ、今の京都のまちの姿は成り立ちませんでした。現在、琵琶湖疏水は、水道用水、発電用水、かんがい用水、工業用水を供給するなど、様々な都市活動を支える重要な都市基盤施設です。

琵琶湖疏水は住民の暮らしの一部であり、地域に親しまれ、地域ぐるみで魅力の向上に取り組まれています。「びわ湖疏水船」の乗客と疏水沿線を歩く地域の人々が、手を振って挨拶を交わす様子も多く見られます。子どもたちは、授業で琵琶湖疏水について学び、疏水沿いを歩く体験学習も行われています。

また、南禅寺船溜のほりにある琵琶湖疏水記念館は、琵琶湖疏水に関して、総合的に情報発信する拠点です。同館では、疏水建設に関わる当時の様々な資料や実物を数多く展示し、琵琶湖疏水の歴史や役割について、楽しみながら学ぶことができます。

京都を再生と飛躍に導き、現在のまちの姿を形づくった琵琶湖疏水は、今も京都と大津を繋ぎ、まちと暮らしを潤し続けています。琵琶湖疏水の穏やかな水の流れを「びわ湖疏水船」で遊覧し、四季折々の姿を見せる疏水の沿線や施設を歩くことで、明治の時代に、まちの再生の願いを託し、逆境と苦難を乗り越えた、この壮大な事業が、時を超えて今に息づいていることを、感じる事ができるでしょう。



琵琶湖疏水記念館

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	びわこつきじ 琵琶湖築地	未指定 (史跡・ 建造物)	琵琶湖から第1疏水への入口である。第1築地と第2築地がある。第1疏水の起工に先立ち、明治14(1881)年8月に量水標が設置され、琵琶湖の水位観測を開始した。また、旧制第三高校(現京都大学)水上部(現ポート部)発祥の地であり、「琵琶湖周航の歌」の歌碑が建立されている。琵琶湖と琵琶湖疏水を結ぶ場所であり、日本遺産のストーリーの始まりの部分である。	大津市
②	だい1そすいしゅすいこう 第1疏水取水口	未指定 (史跡・ 建造物)	琵琶湖から第1疏水へ水を取り入れるための取水口である。琵琶湖疏水の起点ともいうべき箇所であり、疏水沿線から見る事ができる。	大津市
③	おおつこうもん 大津閘門	未指定 (史跡・ 建造物)	琵琶湖の水位は、疏水路の水位よりも高い。大津閘門は、琵琶湖と疏水路を舟が行き来するときに、水門を開閉し、琵琶湖と疏水路の水位差を調整し、舟を通す役割を果たしている。閘室など重要な部分に石材が用いられている他は、レンガで築かれており、使用したレンガは約60万本に達する。明治期の現存するレンガ造りの近代閘門としては、石井閘門(宮城県、重要文化財)が最古のものとして知られているが、大津閘門はそれに次ぐ近代閘門として注目される。現在は、年数回程度、「びわ湖疏水船」の運航シーズンの開始時と終了時に、舟を通過させるため、閘門を開閉している。その様子は、疏水沿線からも眺めることができ、水門を通じて水が流れ込む様子	大津市

			は、知られざる見どころといえる。	
④	第1トンネル入口 だい1とんねるいりぐち	国指定史跡	第1トンネルは、日本で初めて豎坑方式で造られた全長2,436mのトンネルである。トンネル上部には、伊藤博文の揮ごうによる「氣象萬千(きしよばんせん)」の扁額がある。「氣象萬千」とは、「様々に変化する風光は素晴らしい」という意味で、出典は北宋・范仲淹(はんちゆうあん)「岳陽樓記(がくようろうき)」である。また、扁額の上に英語で田邊朔郎を称えた銘文がある。「びわ湖疏水船」の乗下船場の近くにあり、舟の乗下船時に間近で見ることができる。	大津市
⑤	第2疏水取水口と洞門 だい2そすいしゅすいこう どうもん	未指定 (史跡・建造物)	水及び電力需要の増加に伴い、全線地下トンネルを敷設した第2疏水の取水口である。久邇宮邦彦王(皇族)の揮ごうによる「萬物資始(ばんぶつとりてはじむ)」の扁額がある。「萬物資始」とは、「すべてのことがこれによって始まる」という意味で、出典は、易経(えききやう)「乾为天(けんいてん)」である。	大津市
⑥	第1豎坑 だい1たてこう	国指定史跡	第1疏水にある豎坑である。深さは約47mあり、第1トンネルを掘るために、山の両側から掘り進むほか、山の上から垂直に穴を掘り、そこから両側に掘り進めて工期を早める「豎坑方式」を日本で初めて採用した。「びわ湖疏水船」の乗船中、第1豎坑の下を通過する際に、豎坑内部を見ることができる。豎坑内部の壁から湧き出た多くの地下水が舟の屋根を打ち付ける様子を体感できる。	大津市
⑦	第2豎坑 だい2たてこう	国指定史跡	第1疏水にある豎坑である。第2豎坑は、採光や換気のために造られた。	大津市
⑧	第1トンネル出口 だい1とんねるでぐち	国指定史跡	第1疏水のトンネルである。山縣有朋の揮ごうによる「廓其有容(かくとしてそれいるることあり)」の扁額がある。「廓其有容」とは、「疏水をたた	大津市

			えて悠然と広がる大地は、すべてを受け容れる器を有している」という意味で、出典は、韓愈「送李愿歸盤谷序」である。	
⑨	ふじおぼし 藤尾橋	未指定 (史跡・ 建造物)	第1 疏水に架かる橋である。 当時のレンガと石造りの土台が残っている。	大津市
⑩	やましなそすい 山科疏水	未指定 (史跡・ 建造物)	第1 トンネル出口を出てから日ノ岡まで全長約4 kmの区間の総称である。 山科疏水は、沿線を歩くことができ、疏水関連施設のほか、寺院などが点在しており、見どころが多い。また、春の桜、夏の青葉、秋の紅葉、冬の雪景色など、四季折々の様相を見せ、山科地域における主要な観光スポットとなっている。 山科疏水沿いを歩く地域住民が、「びわ湖疏水船」の乗客に手を振る様子も見受けられる。	京都市
⑪	ひがしやまし ぜんりよくち 東山自然緑地	未指定 (名勝)	山科疏水沿線に整備された都市公園である。シカやイノシシ、アオサギの姿が見られるなど、豊かな自然に囲まれ、たおやかな水の流れと穏やかな時の流れに包まれながら、散策できる。また、地域の人々の憩いの場所ともなっている。	京都市
⑫	しの みやふなだまり 四ノ宮船溜	未指定 (史跡・ 建造物)	四ノ宮にある船溜である。水路の幅を広げて停船場を設け、荷物の積み下ろしや船頭たちの休憩場所として利用されていた。 「びわ湖疏水船」における乗下船場の一つとなっている。	京都市
⑬	あんしょうじふなだまり 安祥寺船溜	未指定 (史跡・ 建造物)	安祥寺付近にある船溜である。水路の幅を広げて停船場を設け、荷物の積み下ろしや船頭たちの休憩場所として利用されていた。琵琶湖疏水沿線や「びわ湖疏水船」の舟から間近に見ることができる。	京都市
⑭	れんがこうじょうあと 煉瓦工場跡	未指定 (史跡)	第1 疏水の建設に必要なレンガを製	京都市

			造していた工場跡地である。琵琶湖疏水で使用されたレンガのほとんどは、ここで生産された。現在は、記念碑と解説板が設置されており、地下鉄御陵駅で見ることができる。	
⑮	やまのたにはし 山ノ谷橋	国指定史跡	第1疏水に架かる橋であり、第11号橋の実績を活かして建設された鉄筋コンクリート橋である。	京都市
⑯	だい2とんねるいりぐち 第2トンネル入口	国指定史跡	第1疏水のトンネルである。第2トンネルは、水路上で最も短く、約124mである。 井上馨の揮ごうによる「仁以山悦智為水歛（じんはやまをもつてよろこび、ちはみずのためによろこぶ）」の扁額がある。「仁者は動かない山によろこび、智者は流れゆく水によろこぶ」という意味である。	京都市
⑰	だい2とんねるでぐち 第2トンネル出口	国指定史跡	第1疏水のトンネルである。 西郷従道の揮ごうによる「随山到水源（やまにしたがいて、すいげんにいたる）」の扁額がある。「随山到水源」とは、「山にそって行くと水源にたどりつく」という意味であり、出典は、唐・劉長卿「尋南溪常山道人隱居」である。また、このトンネルは、馬蹄型の出入口が特徴的である。	京都市
⑱	ひのおかだい11ごうきょう 日ノ岡第11号橋	国指定史跡	第1疏水に架かる橋である。 日本初の鉄筋コンクリート橋とされている。「びわ湖疏水船」から間近に見ることができる。	京都市
⑲	だい3とんねるいりぐち 第3トンネル入口	国指定史跡	第1疏水のトンネルである。山科から蹴上に抜ける第3トンネルは、延長約850mである。 松方正義の揮ごうによる「過雨看松色（かうしょうしょくをみる）」の扁額がある。「過雨看松色」とは、「時雨が過ぎるといちだんと鮮やかな松の緑をみることができる」という意味で、出典は、唐・劉長卿「尋南溪常山道人隱居」である。	京都市

⑳	だい3とんねるでぐち 第3トンネル出口	国指定史跡	第1疏水のトンネルである。 三条実美の揮ごうによる「美哉山河（うるわしきかなさんが）」の扁額がある。「美哉山河」とは、「なんと美しい山河であることよ」の意味で、出典は、司馬遷「史記」孫子呉起列伝である。「びわ湖疏水船」の乗下船場の近くにあり、舟の乗下船時に間近で見ることができる。	京都市
㉑	きゅうごしよすいどうぼんぶしつ 旧御所水道ポンプ室	国重要 文化的景観	第1疏水から大日山貯水池に水を上げるポンプを据え付けた建物である。かつて、御所水道として、京都御所に防火用水を送水していた。宮内省 <small>たくみりょう</small> 内匠寮 <small>とうくま</small> の設計で、片山東熊、山本直三郎が担当した。円柱付きバルコニーなどを備えた重厚感ある意匠に仕上げている。 「びわ湖疏水船」の乗下船場のすぐそばにあり、舟の乗下船時に間近で見ることができる。また、付近の大神宮橋からも眺めることができる。 なお、国の文化審議会は、令和元年11月15日開催の同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、旧御所水道ポンプ室を国登録有形文化財に登録するよう文部科学大臣に答申を行った。今後、官報告示を経て、正式に登録される予定である。	京都市
㉒	けあげふなだまり 蹴上船溜	国重要 文化的景観	蹴上にある船溜である。停船場として、荷物の積み下ろしや船頭たちの休憩場所として利用されていた。 蹴上船溜は、蹴上インクラインの上流に位置し、第1疏水と第2疏水の合流点となっている。 「びわ湖疏水船」における乗下船場の一つとなっている。	京都市
㉓	けあげいんくらいん 蹴上インクライン	国指定史跡  国重要 文化的景観	疏水上流の蹴上船溜と下流の南禅寺船溜を結んだ全長約582mの傾斜鉄道で、建設当時世界最長であった。約36mの高低差を克服するために	京都市

			舟を台車に乗せ、ケーブルカーと同じ原理で運んだ。インクラインによって、舟は貨物の積み下ろしをせずに、高低差を乗り切ることができた。現在は、レールが形態保存されている。インクラインの中は自由に歩くことができ、観光名所としても親しまれている。春には、インクライン両側の桜が咲き誇り、華麗な様相を見せる。	
②④	ねじりまんぼ	国指定史跡 国重要 文化的景観	蹴上インクラインの下を横断するためのトンネルである。らせん状にレンガが積まれており、渦を巻いているように見える。北垣国道の揮ごうによる「陽気発処（ようきはつするところ）」、「雄観奇想（ゆうかんきそう）」の扁額がある。「陽気発処」とは、「集中して物事に挑めば何事でも成し遂げられる」という意味で、出典は、朱熹「朱子語類」である。「雄観奇想」とは、「見事なながめとすぐれた考えである」という意味である。ねじりまんぼのレンガのトンネルを歩いて通行することができ、明治時代の空気に触れることができる。	京都市
②⑤	けあげはつでんしよ 蹴上発電所	国近代化 産業遺産 国重要 文化的景観	琵琶湖疏水を利用した日本初の一般供給用水力発電所「(第1期) 蹴上発電所」は、明治24(1891)年に運転を開始した。第1疏水の建設において、当時最先端の水力発電の導入に舵を切ったことが、事業が成功する大きな要因となった。 蹴上発電所において発電した電気が京都の街灯や工業用電力、日本で初めて営業を開始した電気鉄道(京都電気鉄道)に使われるなど、京都ひいては日本の産業の近代化に貢献した。 現在、明治45年2月に完成した第2期蹴上発電所の建物が保存されており、関西電力㈱によって、定期的に見学会が行われている。現行の第3期蹴	京都市

			<p>上発電所は、現在も水力発電を行っている。</p> <p>蹴上発電所は、平成 28 年度に、世界的な電気・電子技術の専門家組織である IEEE より、「IEEE マイルストーン」に認定された。</p>	
②6	<p>けあげじょうすいじょう 蹴上浄水場 だい 1 こうくはいすいち 第 1 高区配水池</p>	国近代化産業遺産	<p>蹴上浄水場建設当初(明治 45 年)に造られたレンガ造りの配水池である。蹴上浄水場には、約 4,800 本のつつじが植栽されている。毎年、蹴上浄水場の一般公開を行っており、多くの方に「蹴上のつつじ」として親しまれている。一般公開の折には、第 1 高区配水池を間近で見ることができる。</p>	京都市
②7	<p>おうとううなが 鴨東運河</p>	国重要文化的景観	<p>山科運河と鴨川運河を結ぶ運河である。鴨東運河の付近には、明治 28(1895)年に創建された平安神宮や、夷川発電所がある。</p> <p>沿線を歩くことができ、当時の様子に触れることができる。</p>	京都市
②8	<p>なんぜんじふなだまり 南禅寺船溜</p>	国重要文化的景観	<p>南禅寺付近にある船溜である。停船場として、荷物の積み下ろしや船頭たちの休憩場所として利用されていた。</p> <p>南禅寺船溜は、蹴上インクラインの下流に位置し、鴨東運河の起点となっている。現在は、中央に、インクラインの高低差を利用した大きな噴水がある。</p>	京都市
②9	<p>きたがきくにみちぞうおよ 北垣国道像及び たなべさくろうぞう 田邊朔郎像</p>	未指定	<p>琵琶湖疏水完成に重要な役割を果たした二人の功績を讃えて設置された像である。</p>	京都市
③0	<p>そすいこうじじゆんしよくしやちゆうこんひ 疏水工事殉職者弔魂碑 およ じゆんしよくしやのひ 及び殉職者之碑</p>	未指定(史跡)	<p>疏水建設工事で殉職した人々の慰霊碑である。弔魂碑は、明治 35(1902)年に田邊朔郎が私費で建立し、背面には殉職者 17 人の氏名が刻んである。殉職者之碑は、昭和 16(1941)年に疏水事業を所管していた京都市電気局の職員が建立したものである。</p>	京都市

③①	そすいごりゅうとんねる 疏水合流トンネル	未指定 (史跡)	琵琶湖疏水の合流点付近にあるトンネルである。田邊朔郎の揮ごうによる「藉水利資人工(すいりをかりてじんこうをたすく)」の扁額がある。「藉水利資人工」とは、「自然の水の力を人間の仕事に役立てる」という意味で、第1疏水竣工時の明治天皇の勅語からとられたものである。	京都市
③②	すいるかく 水路閣	国指定史跡  国重要 文化的景観	南禅寺境内にある琵琶湖疏水の水路橋である。境内の景観に配慮し、田邊朔郎が設計・デザインを行った。レンガ、花崗岩造りのアーチ型の橋脚である。水路閣は、有名な観光スポットとして、多くの観光客が訪れている。レンガのアーチを間近に見ることができ、上部の水路に水が流れる様子も見ることができる。	京都市
③③	きょうとしどうぶつえん 京都市動物園	国重要 文化的景観	明治36(1903)年に開園した日本で2番目の動物園である。園内に琵琶湖疏水を引水し、動物の飼育や噴水等に利用している。	京都市
③④	びわこそすいきねんかん 琵琶湖疏水記念館 所蔵資料	未指定 (歴史資料)	琵琶湖疏水記念館は、琵琶湖疏水竣工100周年を記念し、平成元年に開館した施設であり、琵琶湖疏水の情報発信の拠点である。 琵琶湖疏水記念館では、第1疏水建設工事の技術責任者であった田邊朔郎が遺した田邊家資料など、琵琶湖疏水に関する重要な資料や実物を約23,000点保管しており、常設展や特別展で展示している。 琵琶湖疏水記念館は、平成31年3月に、開館30周年を記念してリニューアルオープンし、子どもから大人まで、市民・観光客など幅広い方々に楽しみながら学んでいただけるよう展示内容を刷新した。	京都市
③⑤	けあげ 蹴上インクライン ドラム工場	未指定 (史跡)	蹴上インクライン上の台車に接続したワイヤーロープを巻き上げるウインチの操作室であった施設である。	京都市

			琵琶湖疏水記念館において、見学することができる。	
③⑥	きょうとしえいでんしゃ 京都市営電車の 車両と敷石	未指定 (美術工芸品・ 史跡)	明治28(1895)年、琵琶湖疏水による水力発電によって、京都電気鉄道株式会社(京電)が営業を開始し、京都に日本初の路面電車が誕生し、蹴上インクラインまで開通していた。その後、京都市営電車(市電)が買収し、その車両も譲渡された。大正中期から昭和初期まで、市内交通の中心を担っていたが、昭和53(1978)年に廃止された。平安神宮には、狭軌I型(旧京電)の車両が原型のまま保存されており、見学することができる。また、市電の敷石(御影石)も、哲学の道などの石畳として使われており、歩くことができる。	京都市
③⑦	おかざきちいき ていえんぐん 岡崎地域の庭園群	一部が国名勝、 市名勝、 国重要文化的景 観、 その他は未指定	南禅寺の塔頭跡地に、近代最高峰の作庭家7代目小川治兵衛(植治)の活躍もあり、疏水の水を利用した近代庭園群が形成された。山縣有朋の別邸である無鄰菴や平安神宮の神苑などがある。琵琶湖の水が流れ込むことにより、平安神宮神苑の池には、本来、琵琶湖で生息しているが、環境の変化により確認が困難となっている絶滅危惧種のイチモンジタナゴが生息している。	京都市
③⑧	そすいぶんせん 疏水分線	国重要 文化的景観	沿線各地への水力利用、灌漑用水、防火用水の供給を目的に設置された施設である。熊野若王子神社から銀閣寺に至る疏水分線沿いの遊歩道は、京都大学の哲学者西田幾多郎らが思索にふけたとされることにちなみ、「哲学の道」と呼ばれている。	京都市
③⑨	かみがわうんが 鴨川運河	未指定 (史跡・ 建造物)	第1疏水のうち、鴨東運河の鴨川合流点から伏見区堀詰町までの全長約9kmの運河である。大津から大阪までの舟運を開通するうえで、疏水を淀川に接続するための重要な区間となっ	京都市

			た。特徴ある多くの橋が架かっている。鴨川運河沿いを歩くことができ、春には桜を愛でることもできる。鴨川運河付近には、伏見稻荷大社や墨染発電所がある。	
④⑩	へんがく 扁額	一部が未指定, その他は 国指定史跡	第1疏水のトンネルなどに設置されている明治の元勳をはじめとする先人たちの揮ごうで、石に文字を彫り込んだ額である。大津側は文字を掘り下げた陰刻、京都側は文字が浮き出る陽刻にされており、デザインにも趣向が凝らされている。揮ごう文は、中国の古典などから引用され琵琶湖疏水の完成を称えている。琵琶湖疏水沿線や「びわ湖疏水船」の舟から見るができる。	京都市 大津市

(※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形、未指定(建造物)、等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

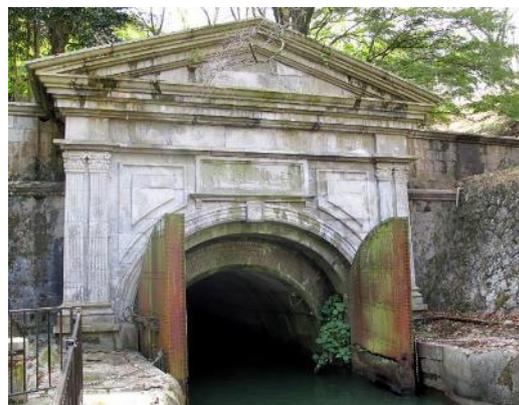
(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

## 構成文化財の写真一覧

①琵琶湖築地



④第1トンネル入口



②第1疏水取水口



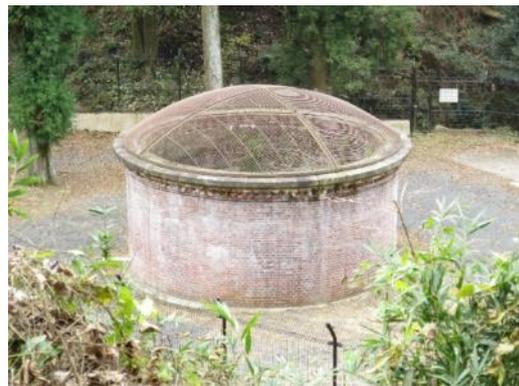
⑤第2疏水取水口と洞門



③大津閘門



⑥第1竪坑



⑦第2 豎坑



⑩山科疏水



⑧第1 トンネル出口



⑪東山自然緑地



⑨藤尾橋



⑫四ノ宮船溜



⑬安祥寺船溜



⑯第 2 トンネル入口



⑭煉瓦工場跡



⑰第 2 トンネル出口



⑮山ノ谷橋



⑱日ノ岡第 1 1 号橋



⑱第3トンネル入口



㉒蹴上船溜



㉓第3トンネル出口



㉔蹴上インクライン



㉕旧御所水道ポンプ室



㉖ねじりまんぼ



②⑤蹴上発電所



②⑧南禅寺船溜



②⑥蹴上浄水場第1 高区配水池



②⑨北垣国道像(左)及び田邊朔郎像(右)



②⑦鴨東運河



③⑩疏水工事殉職者弔魂碑(左)  
及び殉職者之碑(右)



① 疏水合流トンネル



④ 琵琶湖疏水記念館 所蔵資料



② 水路閣



⑤ 蹴上インクラインドラム工場



③ 京都市動物園



③⑥京都市営電車の車両と敷石



③⑧疏水分線



③⑨鴨川運河



③⑦岡崎地域の庭園群



④⑩扁額 (※各所に点在)



(第1 トンネル入口)



(第2 疏水取水口)



(第1トンネル内壁)



(疏水合流トンネル)



(第1トンネル出口)



(ねじりまんぼ東口)



(第2トンネル入口)



(ねじりまんぼ西口)



(第2トンネル出口)



(第2期蹴上発電所)



(第3トンネル入口)



(扇ダム放水路出口)



(第3トンネル出口)

## 日本遺産を通じた地域活性化計画

## (1) 将来像 (ビジョン)

琵琶湖疏水は、明治期の竣工以来、京都の市民生活や産業・文化を支え続けている重要な都市基盤施設であり、蹴上インクラインや日本初の一般供給用水力発電所である蹴上発電所をはじめ、その沿線には、近代都市としての発展をもたらした歴史的偉業を示す史跡等が点在している。建設当時の最新技術を取り入れた琵琶湖疏水は、現在では、すっかり風土に溶け込んだ景観を作り、貴重な産業遺産として、人々に愛される名所となり、明治の記憶を今に伝えている。

また、明治から150年を迎え、琵琶湖疏水の価値が見直され、新たな魅力も創造されている。かつて、琵琶湖疏水で発達した舟運は、ピーク時には年間約30万人の旅客を運ぶなど、大いに利用されたが、自動車や鉄道等の急速な発達に伴って徐々にその数を減らし、昭和26(1951)年を最後にその姿を消した。この琵琶湖疏水通船の復活に向けて、民間事業者や観光協会、商工会議所、行政(京都市、大津市、滋賀県)といった関係機関が力を合わせて取り組み、平成30(2018)年3月から、大津と蹴上を結ぶ観光船として、琵琶湖疏水通船事業が約70年振りに復活した。

明治維新の東京奠都によって、京都のまちの衰退の危機に直面する中で、明治の先人たちが、輝く未来を信じて成し遂げた琵琶湖疏水建設の意義やその歴史的価値を、国内外の多くの方々に知っていただき、魅力に触れていただくため、琵琶湖疏水沿線に存在する関連施設をフィールドミュージアムとして一体的に捉え、「舟に乗っても、沿線を歩いても楽しめる」琵琶湖疏水の魅力向上と情報発信に積極的に取り組んでいく。

琵琶湖疏水は、京都のまちの姿を形づくったものであるが、観光客、特にインバウンドには、そのことはあまり知られておらず、大津と京都の知られざる魅力ともいべきものである。琵琶湖疏水への観光客の受入環境を着実に整備することで、大津と京都の観光の幅を広げ、大津市域への更なる誘客や、琵琶湖疏水沿線の山科区や伏見区など京都市内周辺エリアへの観光客の分散化を図ることができる。これによって、インバウンドの急増等に伴う一部の観光地や交通機関の混雑などの問題へ対応するとともに、市民生活との調和を最重要視した持続可能な観光都市の実現に向けて、地域の活性化を行っていく。

## (2) 地域活性化のための取組の概要

## 1 琵琶湖疏水の魅力向上による地域活性化の推進

将来像(ビジョン)の達成に向け、琵琶湖疏水の魅力を向上し、受入環境を整えるための整備を行う。併せて、多くの市民・観光客に、琵琶湖疏水の魅力を発信する。事業実施に当たっては、京都市関連部局において、「琵琶湖疏水の日本遺産推進に向けた庁内連絡会議」を設置し、日本遺産の取組の実施体制である琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会との連携の下、取組を推進する。また、同協議会以外の民間事業者や団体、地域住民など、多様な主体と協力しながら、日本遺産を活用した地域活性化を推進する。

## 2 地域文化財総合活用推進事業(日本遺産)

## (1) 施設の公開・活用に向けた整備

琵琶湖疏水沿線や関連施設を市民や観光客が安全かつ快適に訪れることができるよう受入環境を整備する。また、安全性や施設管理などの点から、これまで公開・活用してこなかった琵琶湖疏水関連施設の公開・活用を検討し、必要な整備を行う。

- ・大津閘門の改修、疏水路の橋梁の補強、水路・石積みの整備
- ・琵琶湖疏水関連施設の公開・活用に向けた検討及び整備

(インクライン、第1豎坑、旧御所水道ポンプ室、蹴上発電所など)



大津閘門

## (2) 案内ガイドの人材育成

琵琶湖疏水沿線の歴史や魅力、見どころなどを紹介する案内ガイドの人材育成を行い、「びわ湖疏水船」の乗船だけでなく、琵琶湖疏水沿線の回遊においても、奥深い魅力に触れていただける環境を整備する。

## (3) 個人や民間企業等が独自に保有する資料の調査

琵琶湖疏水の情報発信拠点である琵琶湖疏水記念館には多くの資料があるが、他にも、個人や民間企業等が独自に保有する関連資料があるものと想定されるため、これらの関連資料の調査を行う。

## (4) 魅力の発信・普及啓発

多くの市民や観光客に琵琶湖疏水や地域の魅力に触れていただくため、イベントやシンポジウム等を実施する。併せて琵琶湖疏水関連商品の開発を行う。

- ・琵琶湖疏水関連施設の公開、イベントの実施
- ・琵琶湖疏水に係るシンポジウムの実施
- ・商品やグッズの企画・開発及びマーケティング調査



飲食イベント(ビールフェスティバル)

## (5) 情報コンテンツの作成

琵琶湖疏水について広く情報発信するため、パンフレットやホームページ、案内板等を作成する。

## 3 その他事業(自主事業)

## (1) 琵琶湖疏水通船事業の更なる展開

琵琶湖疏水通船事業を引き続き実施するとともに、魅力ある事業として持続させるため、教育乗船やインバウンド誘客、舟の運航と連動したツアーの企画などの取組を行い、更なる事業展開を図る。



地元小学生を対象とした教育乗船

## (2) 琵琶湖疏水沿線の観光資源や文化財等への誘客

琵琶湖疏水沿線に多く存在する観光資源や文化財等の魅力の向上や誘客促進を行う。琵琶湖疏水関連施設を巡るツアーや蹴上浄水場の一般公開を実施する。

## (3) 琵琶湖疏水記念館における魅力発信

情報発信拠点である琵琶湖疏水記念館において、常設展示や企画展示、講座を開催する。また、飲食イベントを実施することで、幅広い方々に来館いただき、琵琶湖疏水の魅力に触れていただく。

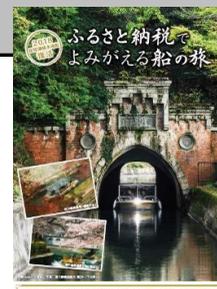
**(4) ホームページやパンフレットによる情報発信**

琵琶湖疏水記念館、琵琶湖疏水通船事業のホームページやパンフレットによって、琵琶湖疏水の魅力を引き続き、発信する。

**(3) 自立的・継続的な取組**

**1 協議会の運営**

実施体制である琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会は、琵琶湖疏水通船事業の実施団体であり、主に通船事業の収益によって運営している。そのため、琵琶湖疏水の魅力向上・情報発信を推進し、「びわ湖疏水船」に多くの方に乗船いただくことで、自立的・継続的な活動を行う（令和元年度の「びわ湖疏水船」の乗船率は、94.8%である）。また、琵琶湖疏水通船事業の運営や琵琶湖疏水の魅力向上・発信の取組に対して支援を募るため、平成29年度から、ふるさと納税を活用しており（平成30年度までに、19,239千円のふるさと納税があった）、取組を継続する。



ふるさと納税PRチラシ

**2 日本遺産ストーリーの浸透**

地域文化財総合活用推進事業（日本遺産）を活用し、琵琶湖疏水沿線や関連施設を市民や観光客が安全かつ快適に訪れることができるよう受入環境を整備する。また、安全性や施設管理などの点から、これまで公開・活用してこなかった琵琶湖疏水関連施設を公開・活用するとともに、個人や民間事業者等が保有する疏水関連資料を調査することで、琵琶湖疏水の魅力向上を図る。

そのうえで、京都と大津を繋ぐ琵琶湖疏水のストーリーを発信し、施設の公開と親しみやすいイベントを実施することで、幅広い市民や観光客に「びわ湖疏水船」に乗船いただき、琵琶湖疏水沿線を回遊いただく。

こうした取組を継続的に重ねることで、日本遺産のストーリーの浸透を図り、地域文化財総合活用推進事業（日本遺産）の終了後も、持続的に琵琶湖疏水の魅力向上・発信の取組を推進する。

**3 インバウンド整備・観光地の面展開**

「びわ湖疏水船」では、インバウンド誘客の実証実験（海外旅行会社等と連携したモニターツアーなど）や、パンフレット、案内映像、船内ガイドの多言語化を行い、琵琶湖疏水記念館においても、展示資料解説を多言語化している。こうしたインバウンド整備をはじめ、琵琶湖疏水への観光客の受入環境を整備することで、大津と京都の観光の幅を広げ、大津市域への更なる誘客や、琵琶湖疏水沿線の山科区や伏見区など京都市内周辺エリアへの観光客の分散化に取り組む。これによって、インバウンドの急増等に伴う一部の観光地や交通機関の混雑などの問題への対応を図るとともに、市民生活との調和を最重要視した持続可能な観光都市の実現に向けて、地域の活性化を行っていく。

**4 地域の担い手の育成・民間事業者の巻き込み**

琵琶湖疏水の魅力を持続的に向上し発信していくためには、取組を担う地域の人材や民間事業者との連携が不可欠である。そのため、地域文化財総合活用推進事業（日本遺産）を活用し、ガイドの人材育成によって、地域の担い手を育成する。

また、事業の実施体制である琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会には、行政だけではなく、民間事業者を含む多様な主体が参画しており、連携を行うことで、事業を効果的に推進する。事業実施に当たっては、同協議会以外の民間事業者や団体、地域住民など、多様な主体と協力しながら、日本遺産を活用した地域活性化を推進する。

**(4) 実施体制**

**琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会**

**1 組織体制**

会長 (公社) 京都市観光協会専務理事  
副会長 (公社) びわ湖大津観光協会専務理事

事務局  
(公社) 京都市観光協会



顧問 京都市長, 大津市長, 滋賀県知事

**構成団体**

- (公社) 京都市観光協会 (DMO KYOTO)
- (公社) びわ湖大津観光協会
- 京都市  
(産業観光局, 建設局, 山科区, 上下水道局)
- 滋賀県  
(商工観光労働部観光振興局)
- 大津市  
(産業観光部)
- 京阪ホールディングス (株)
- 西日本旅客鉄道 (株)
- 東海旅客鉄道 (株)
- 京都商工会議所
- 大津商工会議所

2 設置時期  
平成29年9月

3 目的

平成30年度から実施している琵琶湖疏水通船事業を含む琵琶湖疏水沿線の魅力創造・発信を担い、琵琶湖疏水沿線の広域的な活性化に寄与することを目的としている。

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果		定量的評価：		別紙①のとおり		
期待される効果：	1 琵琶湖疏水の新たな価値の創出と魅力の向上 琵琶湖疏水沿線や関連施設の受入環境を整備するとともに、これまで公開・活用してこなかった琵琶湖疏水関連施設の公開・活用を行うことで、琵琶湖疏水の新たな価値を創出し、魅力を向上することができる。 「びわ湖疏水船」、琵琶湖疏水記念館、施設を活用した多彩なイベントによって、より多くの市民や観光客に琵琶湖疏水の魅力に触れていただくことができる。					
	2 琵琶湖疏水沿線地域への波及 琵琶湖疏水沿線に多くの市民や観光客が来訪し、地域を回遊することで、これまであまり知られてこなかった地域の魅力の発見や観光消費の増加など、沿線地域への波及が見込まれる。					
	3 琵琶湖疏水沿線への観光客の分散化 大津と京都の観光の幅を広げ、大津市域への誘客や、琵琶湖疏水沿線の山科区や伏見区など京都市内周辺エリアへの観光客の分散化を行うことによって、インバウンドの急増等に伴う一部の観光地や交通機関の混雑などの問題へ対応を図ることができる。					
(6) 日本遺産魅力発信推進事業		別紙②のとおり				
事業費：	令和2年度：	149,500千円	令和3年度：	349,000千円	令和4年度：	717,500千円
(7) その他事業		別紙③のとおり				

## （５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	観光客入込み数
具体的な指標：	「びわこ疏水船」の年間乗船者数・琵琶湖疏水記念館の年間来場者数
関連事業：	(6)①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪ (7)①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
目標値：	平成 30 年度 103,941 人 ⇒ 令和 8 年度 130,000 人
設定根拠：	平成30年度の「びわ湖疏水船」の年間乗船者数は9,153人、琵琶湖疏水記念館の年間来場者数は94,788人、合計103,941人である。これを基準とし、令和8年度には約25%の伸び率を設定した。
設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	外国人観光客数
具体的な指標：	「びわ湖疏水船」における年間外国人乗船者数
関連事業：	(6)①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪ (7)①②③④⑤⑦⑧⑨⑩
目標値：	令和 元 年度 130 人 ⇒ 令和 8 年度 1,300 人
設定根拠：	令和元年度における「びわ湖疏水船」への外国人観光客の乗船者数は130人（推計値）である。これを基準とし、令和8年度には約10倍とすることを旨とする。
設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	その他（日本遺産に係るホームページの年間閲覧数）
具体的な指標：	日本遺産特設サイト、「びわ湖疏水船」・琵琶湖疏水記念館のホームページの年間閲覧数（PV（ページビュー）数）
関連事業：	(6)①④⑤⑥⑦⑨⑩⑪ (7)①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
目標値：	平成 30 年度 591,042 回 ⇒ 令和 8 年度 650,000 回
設定根拠：	平成30年度における「びわ湖疏水船」，琵琶湖疏水記念館のホームページ年間閲覧数は591,042件である。これを基準とし、令和8年度には約10%の伸び率を設定した。
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
具体的な指標：	住民の意識調査における「琵琶湖疏水に愛着や誇りを感じる」の回答割合
関連事業：	(6)①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪ (7)①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
目標値：	令和 元 年度 数値なし ⇒ 令和 8 年度 50 %
設定根拠：	住民を対象に「琵琶湖疏水に愛着や誇りを感じるかどうか」に関する意識調査を実施する。現時点で上記目標の数値はないが、令和8年度には住民の半数が「愛着や誇りを感じること」を旨とする。
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標：	日本遺産のためのふるさと納税額
具体的な指標：	「びわこ疏水船」や琵琶湖疏水の魅力向上・発信に係るふるさと納税額（累計額）
関連事業：	(6)①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪ (7)①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
目標値：	平成 30 年度 19,239 千円 ⇒ 令和 8 年度 35,000 千円
設定根拠：	平成29年度から「琵琶湖疏水通船復活応援寄付金」の募集を開始し、平成30年度までに、19,239千円のふるさと納税があった。同様の金額を毎年維持していくことは難しいが、令和8年度に累計で35,000千円に到達することを旨とする。

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

## （6）地域文化財総合活用推進事業（日本遺産）

事業①：第1疏水大津閘門の活用に向けた改修			
事業区分：	活用整備	事業期間：	令和2年度～令和4年度
事業費：	令和2年度：20,000千円	令和3年度：200,000千円	令和4年度：260,000千円
事業概要：	琵琶湖疏水通船事業の新たな価値を創出するとともに、大津市域への更なる誘客を行うため、大津閘門を經由して琵琶湖の大津港と京都市内をつなぐ舟便を新たに作ることを検討している。この舟便は、まさに琵琶湖と琵琶湖疏水を繋ぎ、大津と京都を結ぶもので、「びわ湖疏水船」の魅力を大きく向上させる鍵になりうるものである。この新たな舟便の運航に向けて、安全かつ快適に大津閘門を舟が通過できるよう必要な改修を行う。		
具体的な指標：	その他（「びわ湖疏水船」の年間乗船者数・琵琶湖疏水記念館の年間来場者数）		
目標値：	平成30年度 103,941人 ⇒ 令和8年度 130,000人		
事業②：琵琶湖疏水沿線の橋梁における受入環境の整備			
事業区分：	活用整備	事業期間：	令和2年度～令和4年度
事業費：	令和2年度：20,000千円	令和3年度：20,000千円	令和4年度：40,000千円
事業概要：	琵琶湖疏水には、通行できる橋梁が多く架かっているが、日本遺産として、多くの市民や観光客に琵琶湖疏水沿線や構成文化財を回遊いただくに当たり、安全かつ快適に通行いただくため、11の橋梁について健全度に応じた補強工事や手すりのかさ上げ、施設的美装化など、受入れの環境整備を行う。		
具体的な指標：	その他（「びわ湖疏水船」の年間乗船者数・琵琶湖疏水記念館の年間来場者数）		
目標値：	平成30年度 103,941人 ⇒ 令和8年度 130,000人		
事業③：琵琶湖疏水の水路・石積み等の調査及び環境整備			
事業区分：	活用整備	事業期間：	令和2年度～令和4年度
事業費：	令和2年度：70,000千円	令和3年度：100,000千円	令和4年度：100,000千円
事業概要：	水路や石積み等は、琵琶湖疏水を構成する中心となる構造物であり、大きな魅力の一つである。日本遺産として、これまで以上に、多くの市民や観光客に琵琶湖疏水沿線や構成文化財を回遊いただき、「びわ湖疏水船」で水路を通行いただくに当たり、安全かつ快適に、琵琶湖疏水の魅力に触れていただくため、琵琶湖疏水における水路や石積み等の状況を調査し、安全性の確保や施設的美装化など、受入れの環境整備を行う。		
具体的な指標：	その他（「びわ湖疏水船」の年間乗船者数・琵琶湖疏水記念館の年間来場者数）		
目標値：	平成30年度 103,941人 ⇒ 令和8年度 130,000人		
事業④：琵琶湖疏水関連施設の公開・活用に向けた検討及び整備			
事業区分：	活用整備	事業期間：	令和2年度～令和4年度
事業費：	令和2年度：20,000千円	令和3年度：10,000千円	令和4年度：300,000千円
事業概要：	琵琶湖疏水の新たな魅力を創造するため、これまで安全性や施設管理の点から公開・活用してこなかった琵琶湖疏水関連施設や構成文化財を公開・活用することを検討する（インクライン、第2期蹴上発電所、第1堅坑、旧御所水道ポンプ室、その他の構成文化財など）。そのうえで、施設の公開・活用にあたり、安全性の確保や魅力の発信などに必要な施設整備を行う。施設の公開に向けて、第2期蹴上発電所の耐震改修や旧御所水道ポンプ室の改装化を行う。		
具体的な指標：	その他（「びわ湖疏水船」の年間乗船者数・琵琶湖疏水記念館の年間来場者数）		
目標値：	平成30年度 103,941人 ⇒ 令和8年度 130,000人		

事業⑤：琵琶湖疏水案内ガイドの人材育成			
事業区分：	人材育成	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和 2 年度： 1,000千円	令和 3 年度： 1,000千円	令和 4 年度： 1,000千円
事業概要：	「びわ湖疏水船」では、運航時に音声ガイドではなく、ガイド担当者が舟に乗船し、琵琶湖疏水の歴史や魅力、見どころなどについて、説明を行っている。多言語化対応を含めた更なる人材育成とともに、「びわ湖疏水船」の乗船だけでなく、琵琶湖疏水沿線の回遊においても、魅力を発信できるよう、案内ガイドの人材育成を行う。		
具体的な指標：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数		
目標値：	令和 元 年度 0 人 ⇒ 令和 8 年度 10 人		
事業⑥：琵琶湖疏水関連資料の調査			
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和 2 年度： 3,000千円	令和 3 年度： 3,000千円	令和 4 年度： 3,000千円
事業概要：	琵琶湖疏水記念館には、琵琶湖疏水にまつわる約23,000点の資料があるが、その他にも、個人や民間企業等が独自に保有する関連資料があるものと想定される。琵琶湖疏水の魅力向上・情報発信を行うため、これらの関連資料の調査を行う。調査によって明らかになった資料は、琵琶湖疏水記念館で公開する。		
具体的な指標：	その他（「びわ湖疏水船」の年間乗船者数・琵琶湖疏水記念館の年間来場者数）		
目標値：	平成 30 年度 103,941 人 ⇒ 令和 8 年度 130,000 人		
事業⑦：琵琶湖疏水を軸としたフィールドミュージアムへの誘客促進プロモーションの実施			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和 2 年度： 7,000千円	令和 3 年度： 7,000千円	令和 4 年度： 7,000千円
事業概要：	日本遺産の構成文化財を核として、琵琶湖疏水関連施設をフィールドミュージアムとして一体的に捉え、市民や観光客に周遊いただき、琵琶湖疏水や地域の魅力に触れていただくため、琵琶湖疏水関連施設において、施設の公開・ライトアップなどのイベントを実施する。また、琵琶湖疏水記念館におけるシンポジウムなどを実施し、情報発信を行う。		
具体的な指標：	その他（住民の意識調査における「琵琶湖疏水に愛着や誇りを感じる」の回答割合）		
目標値：	令和 元 年度 数値なし ⇒ 令和 8 年度 50 %		
事業⑧：琵琶湖疏水関連商品の開発			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和 2 年度： 1,000千円	令和 3 年度： 1,000千円	令和 4 年度： —
事業概要：	琵琶湖疏水に関連する商品やグッズの企画・開発及びマーケティング調査を行う。開発した品物は、自主事業として製造・販売を行い、自律的・継続的な活動に向けた財源とする。		
具体的な指標：	日本遺産に関する商品開発数（新規開発数）		
目標値：	令和 元 年度 0 種類 ⇒ 令和 8 年度 6 種類		
事業⑨：パンフレット等の作成			
事業区分：	情報コンテンツ作成	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和 2 年度： 4,500千円	令和 3 年度： 4,500千円	令和 4 年度： 4,500千円
事業概要：	琵琶湖疏水の構成文化財を中心とし、疏水沿線の魅力を多くの方々に知っていただくためのパンフレットやデジタルパンフレットを作成する。		
具体的な指標：	補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数（自主事業分）		
目標値：	令和 元 年度 0 冊 ⇒ 令和 8 年度 100,000 冊		

事業⑩： 観光案内板等の整備			
事業区分：	情報コンテンツ作成	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和 2 年度： 2,000千円	令和 3 年度： 2,000千円	令和 4 年度： 2,000千円
事業概要：	日本遺産の構成文化財を中心に、琵琶湖疏水関連施設を紹介・案内する観光案内板等を整備する。案内板は、施設の歴史や役割を説明するもののほか、施設への順路を示したものを作成し、多言語化対応を行ったものとする。		
具体的な指標：	その他（「びわ湖疏水船」の年間乗船者数・琵琶湖疏水記念館の年間来場者数）		
目標値：	平成 30 年度 103,941 人 ⇒ 令和 8 年度 130,000 人		
事業⑪： 日本遺産特設サイトの作成			
事業区分：	情報コンテンツ作成	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和 2 年度： 1,000千円	令和 3 年度： 500千円	令和 4 年度： -
事業概要：	日本遺産としての琵琶湖疏水に関する特設サイトを作成し、情報発信を行う。特設サイトは、多言語化対応したものとし、琵琶湖疏水記念館や「びわ湖疏水船」のホームページと相互にリンクする。		
具体的な指標：	ホームページ閲覧数（PV数）		
目標値：	平成 30 年度 591,042 回 ⇒ 令和 8 年度 650,000 回		

## (7) その他事業

事業①:	観光資源の磨き上げ, 着地型観光や滞在型観光の企画開発・受入態勢整備		
実施主体:	自主事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 8 年度
事業概要:	大津市への更なる観光客の誘客を図るため, 特別企画等, 観光資源の魅力の向上や, 疏水沿線地域への誘客を加速化させるための着地型及び滞在型観光の企画開発・受入態勢の整備を行う。		
事業②:	琵琶湖疏水通船事業の更なる展開		
実施主体:	自主事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 8 年度
事業概要:	「びわ湖疏水船」の更なる展開を図るため, 小学校児童などを対象とした教育乗船やインバウンド貸切船, 舟の運航と連動した魅力的なツアーの企画などを行う。		
事業③:	琵琶湖疏水記念館における琵琶湖疏水の魅力発信事業		
実施主体:	自主事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 8 年度
事業概要:	琵琶湖疏水に関する資料を数多く展示し, 情報発信している琵琶湖疏水記念館において, 常設展示や企画展示, 講座を実施する。また, ビールフェスティバルなどの飲食イベントを実施することで, 幅広い方に来館いただき, 琵琶湖疏水の魅力に触れていただく。		
事業④:	琵琶湖疏水沿線の文化財周遊への誘客促進		
実施主体:	自主事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 8 年度
事業概要:	日本遺産の構成文化財のほか, 琵琶湖疏水沿線には, 数多くの社寺や名所, 文化財が存在する。こうした場所への誘客促進を行う。		
事業⑤:	琵琶湖疏水関連施設を巡るツアーの実施		
実施主体:	自主事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 8 年度
事業概要:	琵琶湖疏水関連施設(インクライン, 南禅寺水路閣, 蹴上浄水場第1高区配水池など)を巡るツアーを実施する。		
事業⑥:	蹴上浄水場一般公開の実施		
実施主体:	自主事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 8 年度
事業概要:	蹴上地域にある蹴上浄水場は, 構成文化財である第1高区配水池があるほか, 場内には, 約4,800本のつつじが咲き誇る。この時期に, 蹴上浄水場の一般公開を実施し, 多くの市民と観光客につつじの花と琵琶湖疏水の魅力に触れていただく。		
事業⑦:	岡崎地域の庭園の特別公開		
実施主体:	自主事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 8 年度
事業概要:	岡崎地域には, 琵琶湖疏水の水を利用した近代庭園が多く存在している。これらの庭園の特別公開を実施する。		
事業⑧:	琵琶湖疏水関連パンフレットの作成		
実施主体:	自主事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 8 年度
事業概要:	琵琶湖疏水や「びわ湖疏水船」の魅力を記載したパンフレットを作成する。		
事業⑨:	ホームページなどによる琵琶湖疏水の魅力発信		
実施主体:	自主事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 8 年度
事業概要:	琵琶湖疏水記念館, 琵琶湖疏水通船事業のホームページやSNSを活用し, 琵琶湖疏水の歴史や見どころなど, 魅力発信を行う。		
事業⑩:	「びわ湖疏水船」の魅力を発信する人材の育成		
実施主体:	自主事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 8 年度
事業概要:	「びわ湖疏水船」に乗船し, 琵琶湖疏水の歴史や魅力, 見どころを案内するガイドを育成し, 継続的な事業実施を図る。		